

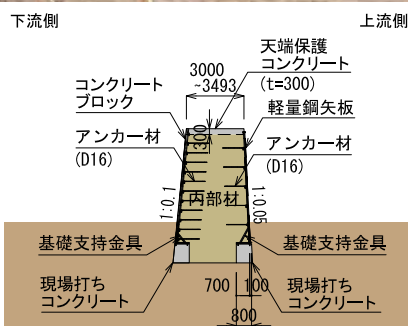
富士山麓の遊砂地整備で発生土活用

SBウォール工法

日本一の山・富士山の麓には、八百八沢と呼ばれる多くの「野溪」が存在します。野溪には普段は水の流れはなく、初冬や晩春の大雨時に土砂を伴った流れが発生します。静岡県富士市や富士宮市は富士山の裾野から連続する地形のまま海岸線まで続く一帯となっているため、勢いを保ったまま野溪から流下する土砂に常に悩まされてきました。

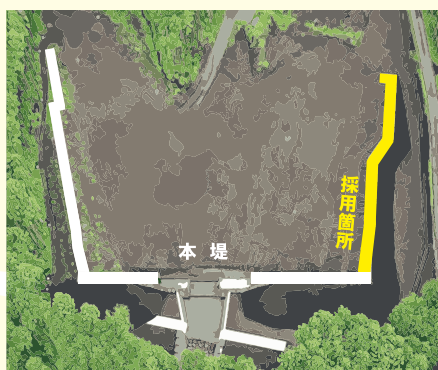
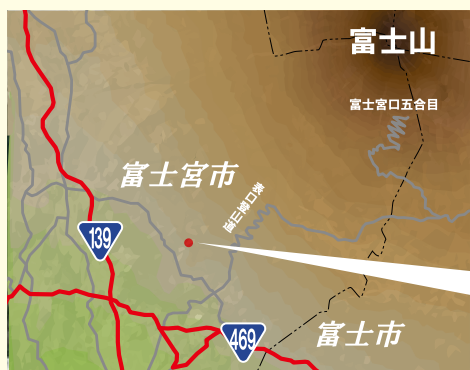
ここ「春沢遊砂地」も同様に富士宮市中心部へと流れ込む沢の中流域に設置する対策工として土砂を滞留させること、また減勢することを目的として計画されました。

その遊砂地建設現場で堰堤の非越流部に採用されているのが、岡三リビックが納入した外部保護材「SBウォール工法」です。非越流部には内部材に粒度



調整しない現地発生土をセメントと攪拌した砂防ソイルセメント「INSEM工法」を、流下に直面する堤内側は軽量鋼矢板、堤外側はブロック壁面材と強度面に配慮しつつ複合部材による設計

が適切化されているため、コンパクトな計画断面を実現します。上下流部材とも内側からの取付けで施工できるなどの工夫や内部材の敷き均し・締固めなど作業の簡略化で、通常のコンクリート打設に比べ工期の短縮やコスト縮減に貢献、また同時に環境負荷の低減も図ることができます。



工事概要

施主：国土交通省富士砂防事務所
 工事名：令和2年度
 富士山春沢遊砂地工事
 施工：株式会社三与建設
 商品名：SBウォール工法220.55m²

この公園で特に素晴らしいのが日本民家園。消えつつある古民家を将来に残すことを目的にした野外博物館です。ここでは東日本の代表的な民家をはじめ、水車小屋・船頭小屋・高倉・農村歌舞伎舞台など二十数件の建物を見ることが出来ます。また園路には道祖神・庚申塔・馬頭観音・道標などの石造物があり、農具や生活用具類も展示されています。

私はこのような古民家で生活をした経験がありませんが、不思議とふるさとに戻ってきた気分が癒されます。都会の生活から少し離れ手軽にタイムスリップできる空間に、皆様もいらしてみたいいかがでしょうか。

私が暮らす神奈川県川崎市は人口約百万人、東京都と横浜市に挟まれた多摩川沿いの県下第二の都市です。今住む多摩区には生田緑地という公園があり、毎週のように足を運んでいます。敷地は東京ドーム八個分という広さで、公園には岡本太郎美術館、かわさき宙と緑の科学館、日本民家園、本物のD51機関車や客車など様々な展示や施設があります。ちょっとしたハイキングも楽しめて、春には花見、夏にはカブトムシやクワガタを探しに山登り、秋には紅葉、と日本の四季を我が近所で満喫しています。

「生田緑地」

管理部 伊藤隆

お国自慢

ひろびろ展示で6つ子もすくすく

千葉市動物公園

千葉市動物公園は開園から四半世紀を迎え、様々な課題に対応しながら利用者により魅力的な施設となるために展示の刷新などを順次進めています。そうした中、絶滅危惧種として指定されているチーターを新たに迎えるにあたって、しっかりと生育環境を整えた展示施設を「平原ゾーン」エリア内に作ることとなりました。

その最大の特長が、アフリカの平原をイメージし、直線で60m、周回すれば140mもの全力走「チーターラン」※を見せることができる約1,250m²の空間。このチーターの施設と、隣接する同時オープンがブチハイエナ施設は岡三リビングが展示修景を担当しました。この平原エリアでは、平成28年にオープンしたライオン展示施設なども当社が施工したものです。

いずれも所々にアフリカ平原をイメージした小高い丘が設けられて周囲を見渡しやすいよう工夫されているほか、ブ



チーター展示場

※チーターランは混雑回避のためしばらくの間実施を見合わせています。

チハイエナの展示には水浴び好きな生態を反映して広めの池を設置するなど、動物の個性に応じたりアリティある空間づくりがなされています。

一昨年、施設オープンに伴いオス3頭とメス4頭のチーターを迎え（現在はうちメス2頭が移籍）個々の相性を試しながら飼育し始めたところ、昨年6月に1頭が身ごもりなんと一気に6頭もの子供が誕生しました。この広々とした空間で6つ子達も健康に駆け回り、さっそく園の人気者になっています。

健康的な成長は種の保存の観点からも重要なこと。園はひとまずの目的を果たしたことに安堵しつつ、無事な生育と将来の移籍に向けた環境の維持のために奔走しています。



ブチハイエナ展示場

工事概要

施主：千葉市公園建設課
 工事名：千葉市動物公園
 チーター放飼場外整備工事
 施工：林・埴造園建設共同企業体
 商品：ロッキーステージ等修景一式



【大八車】 具体的には軽車両を意味し、東京は天下の銀座でも見られる。銀座では屋台の排除のために軽車両の標識を利用しているのだが、最近ではリアカー式の自転車を扱う宅配業者などが一帯を走り回っているのを見る。写真の標識に従うなら夜六時までは配達を終えないといけないようだ。



【乗用車】 この普通乗用車を示す見慣れたマーク。よく見ると相当古い型だ。腰高な姿形、丸目二灯に縦長のフロントグリル、フロントガラスの中央には縦線がある。全体的には一九四〇、五〇年代の特徴を備える。

ただ、調べてみてもまんま元ネタと言えるような車は意外に見つからない。あえて実車と被らないようにデザインしたかも？

最近では踏切の標識で蒸気機関車を使っている。その一方でなぜか昔のままの道路標識が今も生き続けている。

ご長寿な標識



記：編集 T

日本の土台を新しく。

東京都港区港南1-8-27 日新ビル ☎03-5782-9080

札幌・盛岡・仙台・高崎・東京・新潟・金沢・長野・静岡
 名古屋・大阪・米子・広島・高松・松山・福岡・鹿児島
 沖縄リビング・岡三リビングベトナム

岡三リビング株式会社